

第5期市川市市政戦略会議 第1回会議

1. 開催日時：令和元年8月20日（火）午前10時15分 ～ 午前11時30分

2. 場 所：市川市役所仮本庁舎4階 第1委員会室

3. 出席者：（敬称略、50音順）

会 長 山本 徹

副 会 長 藤野 奈津子

委 員 石原 秀起・岩渕 昭子・角能 奈緒美・鎌倉 浩嗣・関 寛之

竹中 正彦・出木 直久・平林 緑萌・藤井 丈・淵元 哲

松丸 陽輔

欠 席 新谷 奈苗・田中 貴幸

事務局等 村越 祐民 （市 長）

佐野 滋人 （企画部長）

小泉 貞之 （企画部次長）

蛸島 和紀 （企画部次長）

山室 繁央 （企画部行政経営課長）

植松美穂子 （企画部行政経営課主幹）

金谷 健史 （企画部行政経営課主査）

高橋 愛 （企画部行政経営課主査）

川田 慧 （企画部行政経営課主任）

富岡 翼 （企画部行政経営課主任）

4. 議 題： 第1号 会長の選出について

第2号 副会長の選出について

第3号 市川市の人口構成の変化と財政状況について（説明）

第4号 公共施設個別計画（案）について

議題 第1号 会長の選出について

○山室行政経営課長

第5期市政戦略会議の第1回会議を開始する。本日は、委員の半数以上が出席しているので、会議は成立する。ここで、皆様にお諮りする。会長が決定するまで私が仮議長を務めたいと思うが、いかがか。

(「異議なし。」の声あり。)

○山室行政経営課長

本日の会議であるが、「市川市審議会等の会議の公開に関する指針」により、個人が特定できる議題等を審議する場合を除き、原則公開となっている。本日の会議についても、非公開にすべき情報はないので、公開したいと思う。

また、公開した会議については会議録も公開となる。したがって、発言した委員名を記したものを、各委員に事前の確認をした上で、原則市のWebサイトで公開となる。そして、委員の皆様の氏名及び所属・役職等についても、委員名簿として一般の閲覧に供することになる。これらに関して異議はないか。

(「異議なし。」の声あり。)

○山室行政経営課長

それでは、傍聴者に入室していただく。

(ここから傍聴者入室が可能となるが、今回傍聴者はいなかった。)

○山室行政経営課長

それでは、会長の選出に移りたい。市川市市政戦略会議条例第5条第1項により互選することとなっている。どなたか会長に立候補または推薦したい人はいるか。

○関委員

私より、山本委員を会長に推薦させていただく。

山本委員は、東京大学ご卒業後、農林省に入省され、林野庁長官を務められた。そして現在は、昭和学院理事長でいらっしゃる。長きにわたって行政の分野でご活躍されたご経験、そして市川市を拠点とされている昭和学院の理事長ということで、地域に対する造詣の深さから、山本委員を会長に推薦させていただきたい。

○山室行政経営課長

関委員から会長に山本委員を推薦があったが、異議はないか。

(「異議なし。」との声あり。)

○山室行政経営課長

皆様の賛同をいただいたので、会長に山本委員が選出された。山本委員、会長をお引き受けいただけるか。

(山本委員、承諾。)

○山室行政経営課長

それでは、山本会長に議題第2号以降の議事進行をお願いしたい。

議題 第2号 副会長の選出について

○山本会長

それでは、副会長の選出に移りたい。副会長についても、会長同様、市川市市政戦略会議条例第5条第1項により互選することとなっており、皆様の承諾をいただければ、私の方から副会長を推薦させていただきたいと思うが、いかがか。

(「異議なし。」との声あり。)

○山本会長

藤野委員を副会長に推薦させていただきたい。

副会長は会長である私を補佐することが主な職務であるとする。藤野委員は、現在、千葉商科大学の教授である。法学をご専門とし、これまで多くの研究実績があり、学術的な知見をお持ちであるという面からも適任であるとする。

以上の理由から藤野委員に副会長をお願いしたい。副会長に藤野委員を選任することに異議はないか。

(「異議なし。」との声あり。)

○山本会長

異議がないようなので、藤野委員、お引き受けいただけるか。

(藤野委員、承諾。)

○山室行政経営課長

ここで、市長よりご挨拶の時間を頂きたいがよろしいか。

(山本会長、承諾。)

○村越市長

このたびは、ご多忙の中、第5期市川市市政戦略会議委員をお引き受けいただき、大変感謝している。

第5期市川市市政戦略会議の開催にあたり、2点、申し上げる。

市川市市政戦略会議は、本市の重要施策に関する事項及び行財政改革の推進に関する事項について、市長の求めに応じ意見を述べる機関として、大久保市長のもとで、平成22年10月1日に発足した。前市長の施策を引き継ぐことについては、賛否両論あるだろうが市民の皆様喜んでいただく仕事をするため、皆様からご指導賜りたいと考えている。

現在、市川市は、オープンイノベーションの考えを主軸に置き、様々な施策に着手している。これまでの自前主義を排し、市内外から様々な力を取り入れ、市川市から新しい知を生み出していきたい。市川市が大きく発展することで、市川市の取り組みによる影響力は計り知れないものとなる。私はそのような覚悟を持っている。

市川市には、「いつも新しい流れがある市川」という素晴らしいキャッチコピーがある。この新しい流れを具体化していくのが、市のかじ取りを任せられている私の責務である。そのために、皆様のお力添えをいただきたい。皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

○山室行政経営課長

市長は公務のため、ここで退席させていただく。

(市長退席)

(事務局紹介)

議題 第3号 市川市の人口構成の変化と財政状況について（説明）

○山本会長

それでは、次第に沿って進める。議題第3号について事務局からの説明をお願いします。

○富岡行政経営課主任

（資料1について説明。）

議題 第4号 公共施設個別計画（案）について

○山本会長

議題第4号について事務局からの説明をお願いしたい。

○山室行政経営課長

市川市では2016年3月に「市川市公共施設等総合管理計画」を定めた。この計画では、2030年度までに公共施設の全体延床面積を120,000㎡削減するという内容となっている。個別計画では、具体的に「いつ、どのように」再編整備を行うか、その内訳についてお示しするものである。

現在、この行政案についてパブリックコメントを行っているところだが、この計画を完成させていくにあたり、戦略会議の委員の皆様からのご意見をいただきたく、議題とさせていただきます。活発なご議論をいただけると幸いです。

○金谷行政経営課主査

（資料2について説明。）

○山本会長

公共施設個別計画の策定が近々の課題であるとのことであった。今後、個別計画を完成させていくにあたって戦略会議からの意見を踏まえて計画を策定したいとのことであったので、事務局からの公共施設個別計画（案）の説明に関して、お一人ずつご意見をお願いしたい。

○石原委員

この計画は、財政的に削減していくという、定量的な観点からの計画になっていると感じたが、コストアンドベネフィットの意識を踏まえることが重要ではないか。

120,000㎡を削減する、それは確かに必要なことなのだろうが、そのような定量的な分

析のみならず、定性的な分析もしながら、市民生活の満足度を上げていくことが必要である。市民生活の満足度を上げていくにあたって、特にその対象となるのは、先ほどの人口構成についての説明を踏まえると、子育て世代、高齢世代ではないだろうか。これらの世代にとってのベネフィットを導き出すような施策が必要だと考える。

○岩淵委員

石原委員からもお話があったが、市民の視点を踏まえることが重要なのだと感じる。

今後、歳入の減少が見込まれる中で、このような計画を策定することは大変意味のあることだと思う。ただ人口構成が変化していく中で、今後、15歳未満の人口をどう増やしていくかということが、将来の市川市にとって重要なのではないか。例えば東京都文京区では、子育てしやすいような施策など、人口が増えるような様々な施策を講じている。統計上の数値が必ずしも絶対的なものではなく、ひとつの目安にしかすぎないと思うのだが、それを踏まえて、将来に向け、どのような施策を打ち出していくかが大切だと思う。

また、今回の計画ではランニングコストを十分に考えられたものだと思うが、利用者負担という点も考える必要があるのではないか。

○角能委員

私は商工会議所に所属しているが、商工会議所では今年から片岡会頭のもと「市川市の未来を考える研究会」を発足している。先ほどの市長挨拶にもあったように、市川市に新しい流れがある、将来に向けて市川市をどう構築したらよいのか、ということを商工会議所としても検討している。

この計画にあるように、必要に応じて公共施設の整備は必要であるものの、その取り組みが、旧態依然の進め方ではなく、市川市に新しい流れを作れるような進め方を、この会を通して一緒に検討できればと考えている。

○鎌倉委員

岩淵委員からもお話があったが、プラスイメージの施策が見えないと感じた。経費削減のイメージが強く、若い世代が移りたくなるような便利な市づくりという視点で、今ある施設を転用する等の案があっても良いのではないか。例えば、今後電子書籍が浸透した世代が増えることが予想され、電子図書館のような物理的に本を借りなくて済むような施設を作る等、新たな施設・サービスにより市民サービスを向上できる施策があってもいいのではないかと考える。120,000㎡削減だけにとらわれず、効果の高い施設作りに投資し、プラスイメージの持てるまちづくりを目指していくべきと考える。

○関委員

今回の計画を進めていくと、空き公共施設が発生した時に、市がどのように対応していくかが重要になるのではないかと。また、外環道の市川北IC近くに学校があるが、統廃合となった時に産業地としてのポテンシャルが非常に高いと考えられる。市川市の場合、空き公共施設の利活用により新たな雇用を生むことも考えられる。施設の利活用の際は、企業へのサウンディング、住民への説明等早い段階で行っていくことが重要と考える。

○竹中委員

全体的に財政政策の話ばかりになってしまっており、3つの方針はこれで成り立つのか疑問に感じた。また、方針と目標が必ずしも直結していないように感じ、この資料だとわからなかった。公共政策を実行する際のPDCAは、企業と違い、反対意見も含めた内容を含めて進めていかなければならず難しい部分があると感じる。その中で3つの基本方針の進捗を図るための指標や個別計画の実施により生み出される効果をEBPMのような考え方をういた目標設定を検討してみたいかだろうか。

○出木委員

公共施設と聞いてすぐに浮かんだのは公園である。世代間のギャップがある中で、人を呼び込むためには、全世代が協力しあうことが魅力の一つになる。その点、公園は、子どもからシニアまで全世代が集まる場所であり、地域コミュニティーの場となる。例えば、里見公園では体を伸ばしたり、軽く運動できたりする器具などが設置されており、シニアの方も利用したくなる工夫がされている。コスト削減について話しているところではあるが、このようなことも見据えた上で、議題にあげるにより、新しく市川市に移り住んでいただけるような魅力的な市にしていければと思う。

○平林委員

出木委員から公園の話があったが、公園には、その周囲にある園庭のない小規模保育施設の子どもたちが集まってきている。しかしながら、市内の公園は減っている状況である。

全体的に計画を拝見すると、12年間で約143億円の財政削減効果があるという説明があったが、これは年間約12億円弱で歳入の1%にも満たない。はたして有効な財政改善の手段と言えるのか。当然、老朽化施設や利用目的を果たし終えた施設については、どうにかしなければならぬと思うが、毎年1%弱の支出圧縮効果しかないとなると、それにかかる人件費等と天秤にかけて釣り合うのか、疑問に思った。

それから、鎌倉委員から図書館の話があったが、利用者としては現在の規模ではやや不足しているように感じている。例えば、休日に平田保育園2階の平田図書室に行くと、児童専用席でご老人がスポーツ新聞を読んでいるなど、子連れで利用しづらい状態にな

っている。中央図書館もキャパシティが厳しい状態にある。

小学校の統廃合や保育園の廃園などというのは、あくまでも統計上の話であると思う。その点を踏まえると、この計画は、予想通りに人口構成比が推移した場合に、きれいに撤退戦を行うにはどうしたらよいか、というような計画だと感じた。

例えば、子育て世帯を増やそうとする施策がこの中にはない。また、人口構成比の変化が示されているが、なぜ市川市の人口構成比はこのような変化をしていくと考えられるのか、どうすれば子育て世帯の転入者を増やすのか、あるいは第2子・第3子を作ってもらえる可能性が、どんどん減っていく計画であると思う。

だから私の感覚では、この計画を実施した結果、想定よりも15歳以下の人口が減ったとしても驚きはない。数字上143億円を圧縮したという結果は得られるかもしれないが、それよりも大きな代償がついてくる可能性があることも考えるべきだと思う。

○藤井委員

市には市全体のグランドデザインがあり、この公共施設個別計画も当然それに基づいていると思うが、この資料からはそれが見えてこなかった。近いうちに大災害が起きるといわれている中、安全対策は絶対に必要である。災害対策の観点からも施設を削減してよいのか、視野に入れなければならないと思う。

また、行政において、非効率はずしも悪ではない。民間は絶対に不採算事業には手を出さないで、行政が市民サービスとして担わなければならないこともある。

○淵元委員

藤井委員からもお話があったところであるが、行政は効率だけを追い求めるものではない。行政が効率一辺倒で施策を進めていくことは、約20年前のトレンドであり、この計画はそれを後追いしている印象を受けた。

この資料を拝見し、大変ご苦勞をされて策定されたことは十分に伝わってきた。ただ、先ほど平林委員からもお話があったように、この計画は撤退戦を考えているようにしか見えなかった。例えば保育園はすべて民営化して問題ないのか。これから市川市に住みたいという方呼び込もうとするときに、この方針でよろしいのか。グランドデザインが見えてこない印象がある。あえて言うならば、縮小していくような、撤退戦にしか見えない。

市川市をどうしていきたいかということについて、この計画にもう少し反映させてもよいのではないかと。コスト削減一辺倒では大変残念だと思う。

他の自治体では、尖った政策を出している。一方、市川市は、東京都に非常に近い、交通の便も良い、と大変恵まれている点が多くあるにもかかわらず、今回の計画は総花的に見える。行政や議会等で、グランドデザインについて議論し、さらに踏み込んだ検討が必要ではないかと思う。

○松丸委員

私は市川市PTA連絡協議会から出席させていただいていることから、学校関係について意見を申し上げたい。

先ほどの人口構成に関する説明にもあったように、児童生徒数が減少しているのは明らかであり、動かなければならない状況に来ている。他自治体のお話を聞くと、学校関係については大変厳しい状況にあり、学校の統廃合によって児童生徒が何キロも離れている学校に通わなくてはならないような事態も起こりえるのだという。

現在、市川市は、様々な面で大変恵まれているものの、将来を見据えて、迅速に動き出すことが必要と考えている。財源に限りはあることは理解しているが、必要なことには、財源を充てていくことが必要なのではないか。全体を見ながら、変えるべきところは果敢に変えていく覚悟を、私たちも持ちたいと思う。

○藤野副会長

先ほどの事務局の説明を伺い、大変丁寧に対応されていることが分かった。委員の皆様のお話をなるほど、と思いながら伺っていた。市が持っている公共施設は重要な財産なのだと思う。その財産をできるだけ活かすという視点から、市川市をアピールするために、こうするとよりよいという提言をいただけたら、安心感も出てくると思う。

○山本会長

各自のご発言に感謝申し上げます。

皆様のご意見を簡単にまとめると、次の通りである。

- ・歳出削減は重要だが、それを進めながら、より魅力のある市川市を作ってほしい、とくに子育て世代や高齢世代にとって魅力のあるような取り組みにこの計画でも検討してほしいとのご意見があった。
- ・利用者負担についてのご意見もあった。
- ・図書館のあり方についてのご意見もあった。
- ・災害対策についてのご意見もあった。
- ・公共施設は多くあるが、空いている公共施設をどう有効に活用するか、新しい企業の誘致なども含めて検討する必要があるのではないかとのご意見もあった。空いている公共施設をただ漫然と存続させるだけではなく、例えば、学校であれば教育の質を確保するためにも学校の統廃合を検討する必要があるだろう。また集会施設であれば、利用率をよく分析いただき、利用方法や管理方法を見直す、集会施設の統廃合を検討する、そうすることで時代とともに公共施設の質を上げてということも考えられるだろう。
- ・尖った政策、メリハリのついた政策を考えていくべきではないか、とのご意見もあ

った

市川市の公共施設は、高度経済成長期に多く建設されたとのことであるが、現在は高度経済成長期から数十年が経過し、人口構成や、公共施設の利用者の状況もずいぶん変わってきていることから、今後の公共施設の利用について検討いただきたい。

事務局から、新たに設置する施設や需要に応じて規模を拡大する施設が計画されているとの説明があったが、それらを行うには財源が必要である。そこで、利用率が十分でない公共施設については、市民の皆様にご納得していただき、統廃合を検討し、財源を生み出す必要があると考える。

いずれの委員からも大変有意義なご意見をいただいた。市にはぜひこれらのご意見を計画に反映いただければと願っている。

事務局からご意見等はあるか。

○佐野企画部長

皆様のご意見に感謝申し上げます。大変貴重なご意見をいただいた。

ここで補足的な説明をさせていただくと、企画部が所管している審議会には、市政戦略会議とともに、総合計画審議会がある。

現行の総合計画は、第2次基本計画という10年計画であるが、この計画の満了が近づいている。今後新しい第3次基本計画を検討していく段階である。

先日、総合計画審議会が開催された。放置すると減っていくというのが日本のトレンドではあるが、as is to beの思考をもって、市川市のポテンシャルを最大限活用したときに、市川市がどこまで成長できるのだろうか、ということを見極めていこう、というご意見もいただいている。そうしたことと歩調を合わせて、この個別計画も取り組んでいかななくてはならないと考えている。

そうした意味では、両輪として2つの附属機関が動いているが、グランドビジョンを示す総合計画をこの個別計画にフィードバックしながら、ご意見を承ってまいりたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

その他

○山本会長

最後に今後の会議開催についてである。

皆様大変お忙しいお立場であることから、円滑に会議を運営するため、今後、審議内容やスケジュールを事務局と協議し、進めてまいりたいが、いかがか。

(「異議なし。」の声あり。)

○山本会長

これで本日の議題は全て終了となる。最後に事務局から事務連絡をお願いしたい。

○山室行政経営課長

次回会議の詳細については、後ほど、事務局より、メール等でご連絡させていただく。
どうぞよろしくをお願いしたい。

○山本会長

これをもって本日の会議を終了する。

【午前11時30分 閉会】